

『高島の木の家づくりネットワーク』の設立主旨

1. 理念

- 高島市内産木材を十分に活用して、「自然素材の家づくり」を推進する。
- 木材生産者から施工者までのつながりを復活させて、「高島市内産木材の安定供給」を図る。
- ネットワークによる家づくりを通して、「地域の資本を地域内で循環」させる
- 高島市内産木材を使うことを、「適正な森林管理」に結びつける。

2. 基本構想

(1) 「高島市内産木材」と「高島の木の家」のブランド化へ

高島市内産木材をブランド化できるように、他産地の木材と区別して、本来の色・艶・香り・強度・粘りを保つために、天然乾燥で使えるようにする。さらに、高島市内産木材をふんだんに使った「高島の木の家」を、高島市内の家づくりではブランド商品と位置づけられるように創意工夫し、自然素材を使い、街並み・集落の景観づくりにも貢献するように配慮する。

(2) 高島市内産木材の安定供給へ

生産履歴の明らかな高島市内産木材の製材品を、構造材については規格化しストックして、安定供給できる仕組みを創る。

(3) 原木価格の向上へ

高島市内産木材の良さを十分に活かす使い方をして、また木材の利用効率を高める使い方をして、原木価格を向上させる。

(4) 木組みの見える家づくりへ

天然乾燥材の色・艶・香りを活かすために、木組みの見える真壁構造の家づくりに取り組む。

(5) 地元産木材の活用と適正な森林管理による環境保全へ

森林の多面的機能を維持し向上させる森林管理の基に生産された地元産木材を、家づくりに活用して、琵琶湖の水質保全やCO2排出削減に結びつける。

(6) 情報の共有へ

製材品のストックだけでなく、伐採予定立木や家づくりに必要な木材などについても、メンバー内で情報を共有し、有効活用できるようにする。

(7) 消費者の開拓とニーズの把握に向けて

ネットワークメンバーと行政が連携して、地産地消や自然素材に理解のある消費者を開拓する。さらに、多様な年代層の消費者ニーズを十分に把握し、かつコストダウンの工夫もした家づくりに取り組む。

3. ネットワークのメンバー

(1) 生産者側のメンバー

高島市内の森林所有者・森林組合・素材生産業者・製材業者のうち、上記の理念と基本構想に賛同し、それを実行していただける方々。

(2) 施工者側のメンバー

高島市内の建築士・工務店経営者・大工や左官など建築職人のうち、上記の理念と基本構想に賛同し、それを実行していただける方々。

4. ネットワークの方向性

ネットワークの運営は、将来的には行政の手を離れ、独自で事業を展開していくことを目指す。